

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	岡山大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	医療系大学院高度臨床専門医養成コース (電子ポートフォリオが仲介する双方向コミュニケーションと横断的医療教育)		
主たる研究科・専攻名	医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 窪木 拓男		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本事業の目的は、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科に、高度な臨床技術に加えて、臨床エビデンスを創り、駆使する能力、臨床の問題を基礎医学や隣接医学を駆使し解決する学際性、さらに医療人としての優れた人格や国際性を備えた高度臨床専門医養成博士課程を確立することにある。この方針は、岡山大学の中期目標・中期計画に、「個性を最大限に活かして、国際的に通用する高度な中核的拠点の形成を目指すとともに、研究活動を通して国際的に活躍できる優秀な研究者や高度専門職業人を養成・輩出する」と明記されていることと合致する。すでに、本研究科では、数年の準備期間を経て、平成19年4月より臨床専門医養成コースが開設され、一般コースとの二本立てとなった。優れた基礎研究者を養成する一般コースに対して、この臨床専門医養成コースは研究マインドを持つ優れた臨床専門医を養成しようとするものである。すでに、本コースは、学生の大変な期待を背景に、平成19年度から学生を受け入れており、本取組の準備は十分整ったと言える。</p> <p>従来、大学院は研究者として自立するのに必要な研究能力を養うことを主たる目的としてきた。しかし、今日の医療系大学院は、これら研究者のみならず、医師・歯科医師など高度の専門性を必要とされる業務に必要な臨床手技能力と研究マインドを併せ持つ指導的臨床家を生み出すことが必要とされるようになった。これが、新しい医療系高度職業人養成大学院の目指す方向性である。</p> <p>本取組では、優れた臨床専門医の要件を以下のようにリストした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床エビデンスを創り、駆使する力がある 2) 臨床疫学研究や橋渡し研究、疾病の発症機序解明など、研究マインドを持つ臨床医である 3) 高度専門医療を安全に信頼性高く行えるだけの技術(スキル)を十分身につけている 4) 患者の苦悩を理解できる、医療人としてのよき人間性を有する 5) 基礎・臨床分野や診療科に縛られない横断的に統合した知識と技量がある(学際性) 6) 国際的、ビジネス的に通用するセンスを持つ(国際性、産学官連携センス) <p>本取組では、前半に履修する臨床必須コースワーク、カリキュラム全体を通して行う臨床実習、後半に行う研究の立案と実践、論文の執筆、さらには短期留学経験と、シームレスで内実が伴う臨床専門医養成コース大学院の履修システムを構築する。</p> <p>具体的には、臨床エビデンスを臨床現場で応用する実践力を、EBMワークショップなどの少人数教育や、縦割りの診療科の枠を越えたケースディスカッションにより鍛える。技術力や臨床力、人間力の養成は、大学病院の複数の診療科、地域の連携サテライト病院の専門医、コメディカルスタッフなどをコア指導メンバーとしたスーパークリニカルクラークシップや、がん拠点病院、海外協力支援団体、連携高齢者支援施設での研修(臨床実習)により鍛える。研究立案能力や実践能力、高度なプレゼンテーション能力は、実際に臨床研究、臨床と直結した基礎研究や橋渡し研究を行うことにより滋養する。国際的なセンスは、大学院中に国際連携研究施設に短期留学させることにより身につけさせる。</p> <p>このような横断的な専門医教育システムを確立するためには、本養成コースの学生が自由に大学内外の関連コア指導メンバーとコンタクトを取れる必要がある。しかし、指導医やコメディカル等は多忙な日常業務をこなしており、適切なタイミングで十分な時間を学生教育に費やすことが難しい。本取組では、これを支援するためにICカードと指紋認証を用いた「電子ポートフォリオシステム」を応用する。このシステムにより、学生は大学病院にいても、学外の連携サテライト病院にいても、診療科の枠を超えた複数の指導教員やコメディカルスタッフと逐次意見交換することができる。指導教員は、学生がどの程度の難易度の患者を何人診たかすぐにチェックができ、その到達度も記録されたディスカッションや患者立脚型アウトカム、画像データから容易に判断できる。このポートフォリオシステムは、研究計画の立案と実施の手助けをする指導教授や複数のメンターとのやり取りや履修指導、海外の留学施設における成果の記録にも役立つ。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

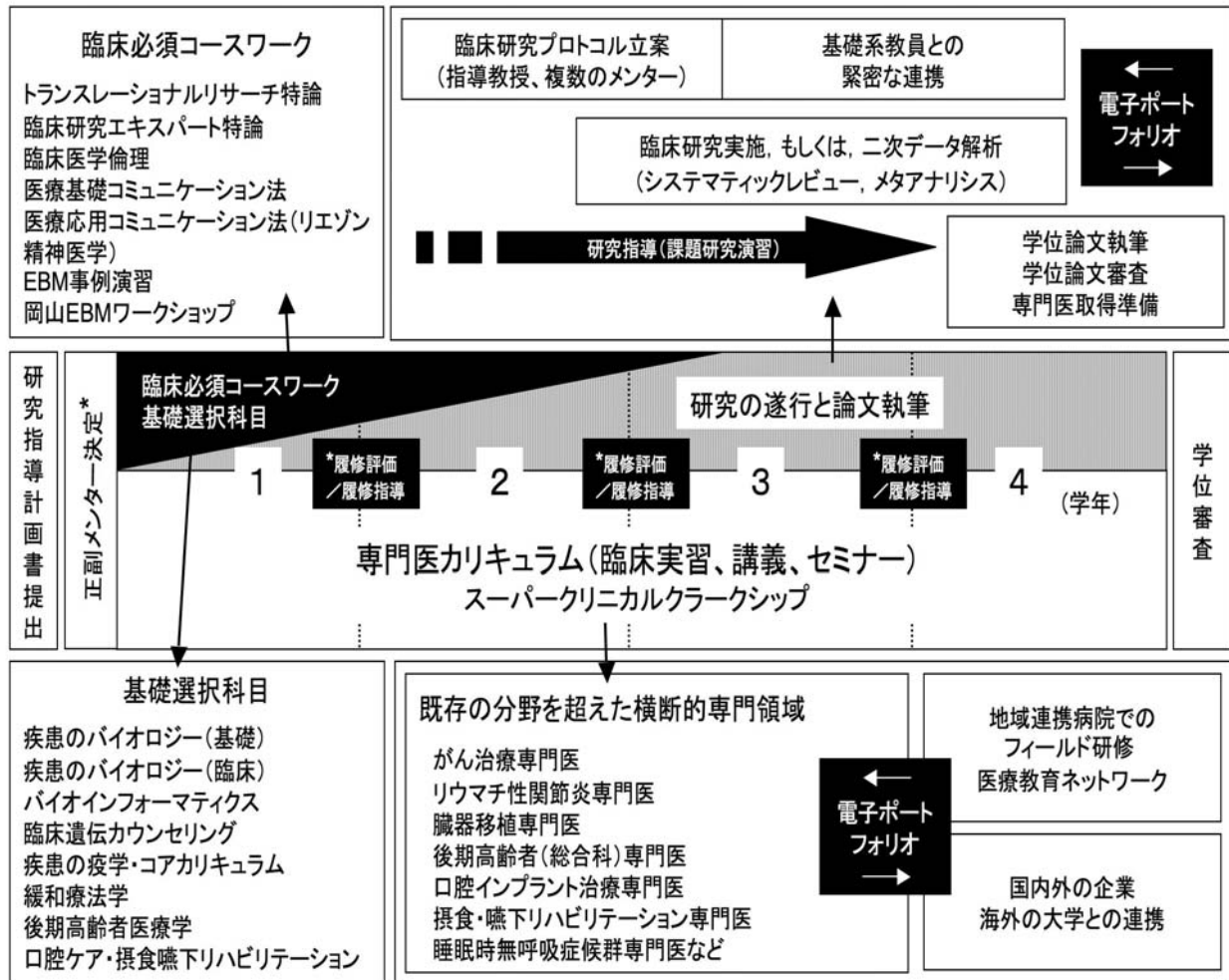


図1 高度臨床専門医養成コースの履修内容

本コースは、大きく分けて三つのカリキュラムからなる。すなわち、前半で主に履修する臨床必須コースワーク／基礎選択科目、4年間を通して履修する臨床分野別の専門医カリキュラム、後半で履修する臨床研究の遂行と論文執筆がある。

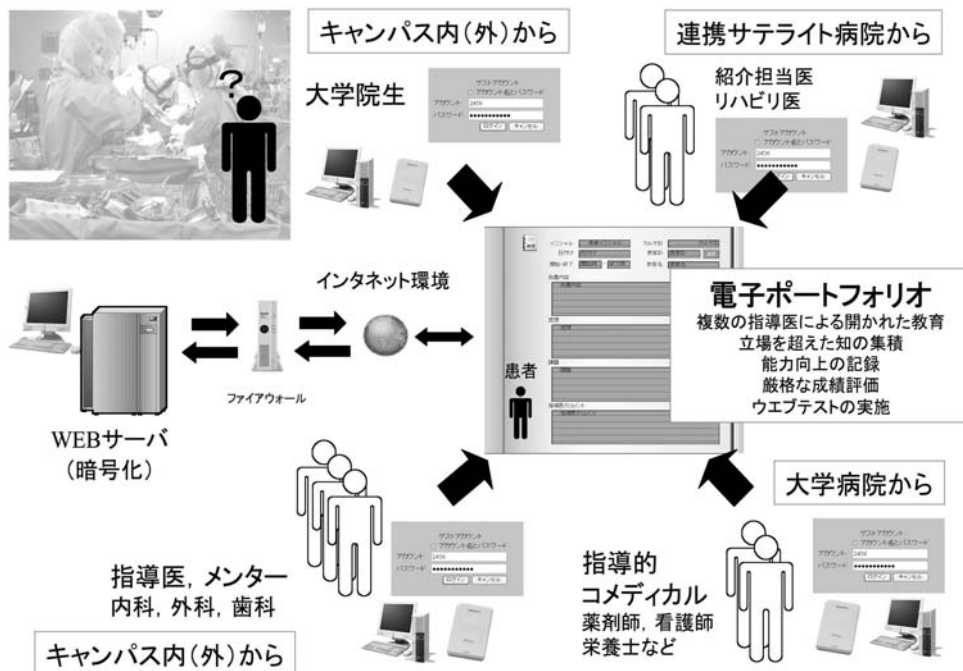


図2 電子ポートフォリオを利用した学習のプロセス管理と評価

このシステムにより、伝授型の教育から開かれたディスカッション、意見交換の劇的な効率化が得られる。また、これを履修評価／履修指導に用いることもできる。

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「研究マインドを持つ優れた専門医の養成」という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿ったワークショップや専門医ボードなど、体系的な教育課程が構成され、その展開のための充実した指導体制が整備されている点は高く評価できるが、教育システムの中に取り入れられている電子ポートフォリオシステムについては更に機能するように内容の充実を図るなどの検討が望まれる。

教育プログラムについては、大学院生の専門医取得を目指す教育プログラムとなっており、「実質を伴う専門能力を身につけさせる」という人材養成目的を具現化するため、特に専門医カリキュラムの策定の取組や、集中的少人数（岡山EBM）ワークショップが計画されている点は高く評価でき、これまでに大学院生の専門医教育に取り組んできた実績や、実績のある電子ポートフォリオシステムの利用からみても、その実現性、実効性が期待できる。

また、本教育プログラムの大学全体の中での位置付けも明確にされていることから、今後の展開が大いに期待できる。